

令和元年6月24日

岩手県内自動車運送事業者 各位

東北運輸局岩手運輸支局

「交通事故統計及び事故事例の分析に基づき実施すべき死亡・重傷事故の低減対策のポイント」の活用について

国土交通省では、平成29年6月にまとめられた「事業用自動車総合安全プラン2020」に基づき、2020年までに事業用自動車の交通事故死亡者数を235人以下、人身事故件数を23,100人以下、飲酒運転を0件の目標を掲げ、関係者と一丸になって事故防止対策に取り組んでいるところです。

「事業用自動車総合安全プラン2020」の施策の一つでもある、事故関連情報の分析等に基づく特徴的な事故等への対応として、平成30年度「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」において、各モードの死亡・重傷事故の発生件数の多い事故形態を特定し、自動車事故報告書から傾向や特徴を分析した結果を、別添のとおり「交通事故統計及び事故事例の分析に基づき実施すべき死亡・重傷事故の低減対策ポイント」として取り纏めましたので、運行管理者及び運転者への教育や事業者における安全意識の向上等の際に活用していただけるよう、お願い致します。

別 添

交通事故統計及び事故事例の分析に基づき実施すべき死亡・重傷事故の低減対策のポイント

令和元年6月

**国土交通省自動車局
自動車運送事業に係る交通事故対策検討会**

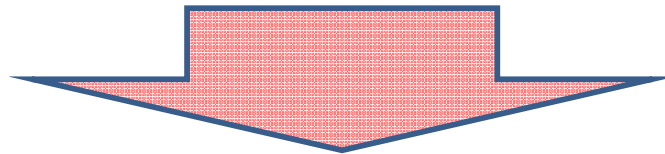
1. 分析・検討の概要
2. 交通事故統計(H28)に基づく死亡・重傷事故の概観
3. 運送事業者からの事故報告※に基づく事例分析を踏まえて実施すべき事故低減対策のポイント

※死亡・重傷事故の他負傷者10名以上の事故を含む

1. 分析・検討の概要

分析の方法

1. 「事業用自動車の交通事故統計(平成28年版)」から、各モードについて、死亡・重傷事故の発生件数の多い事故形態を特定
2. 自動車事故報告規則(昭和26年12月20日運輸省令第104号)に基づく自動車運送事業者からの報告(事故車両の走行等の態様、死傷者の状態等を含む詳細な事故事例)から、1.で特定された事故形態を踏まえて傾向や特徴を分析

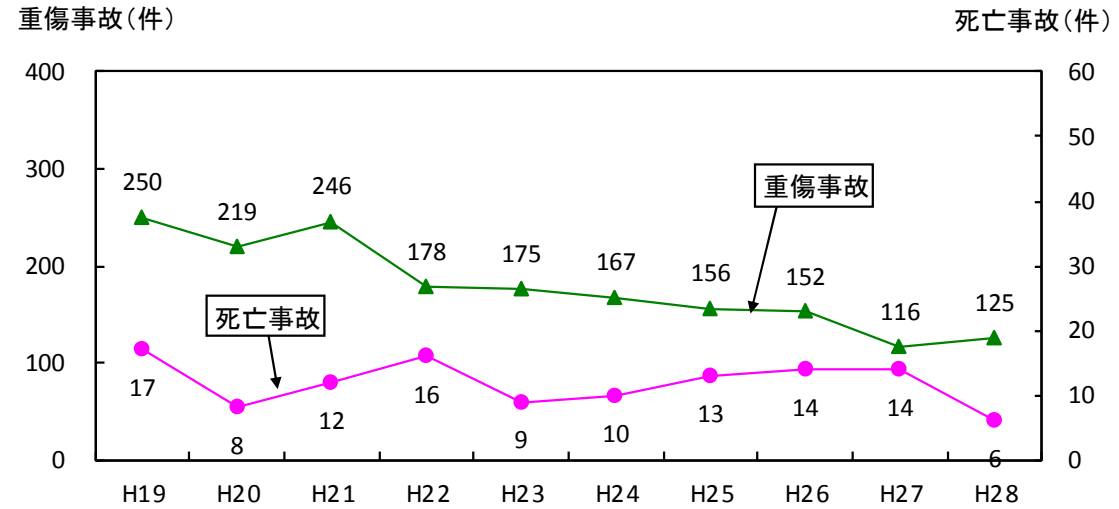
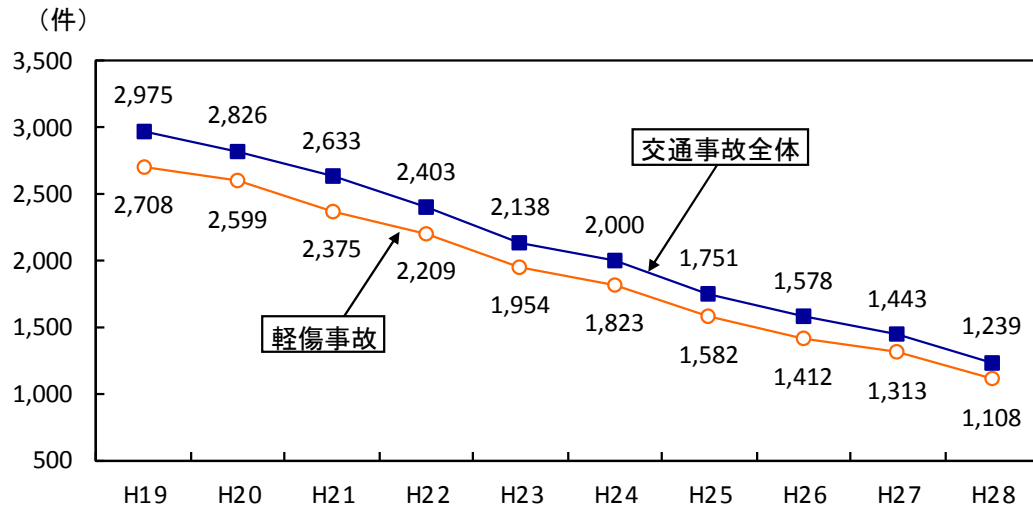


死亡・重傷事故を減少させるための具体的かつ効果的な交通安全対策を検討

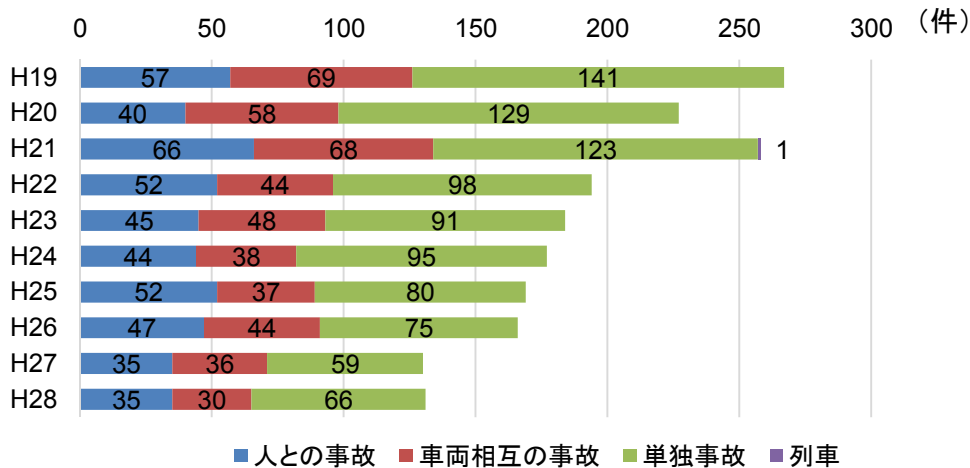
2. 交通事故統計(H28)に基づく 死亡・重傷事故の概観

乗合バスによる死亡、重傷事故の概観（H28）

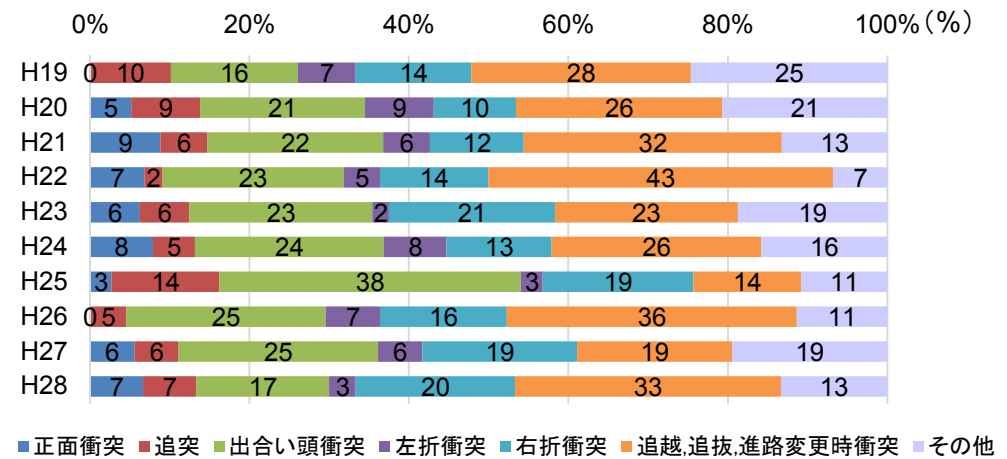
- ◆ 乗合バスによる事故全体の件数は減少傾向、死亡事故については平成24年以降増加又は横ばいで推移していたが平成28年は減少。重傷事故については緩やかな減少傾向であったが平成27年より平成28年は増加。
- ◆ 事故類型別では「単独事故」の「**車内事故**」が多くを占める。**車内事故は発進時に多く、被害者は75～84歳の女性が多い。**
- ◆ 車両相互の事故では、「**右折時**」、「**追越、追抜、進路変更時**」が多い。



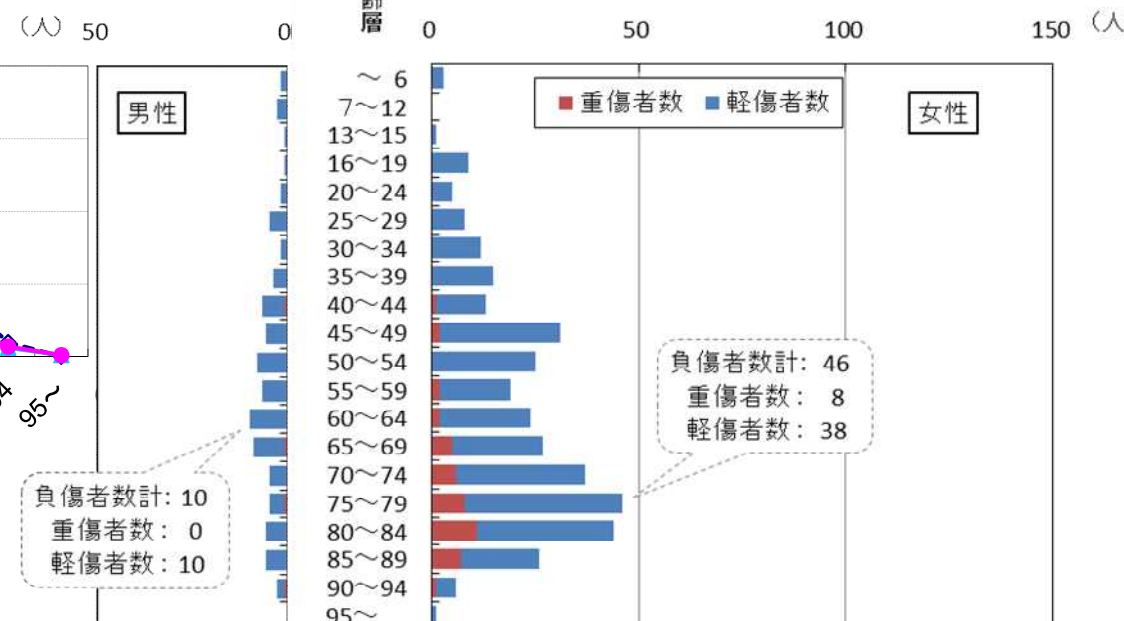
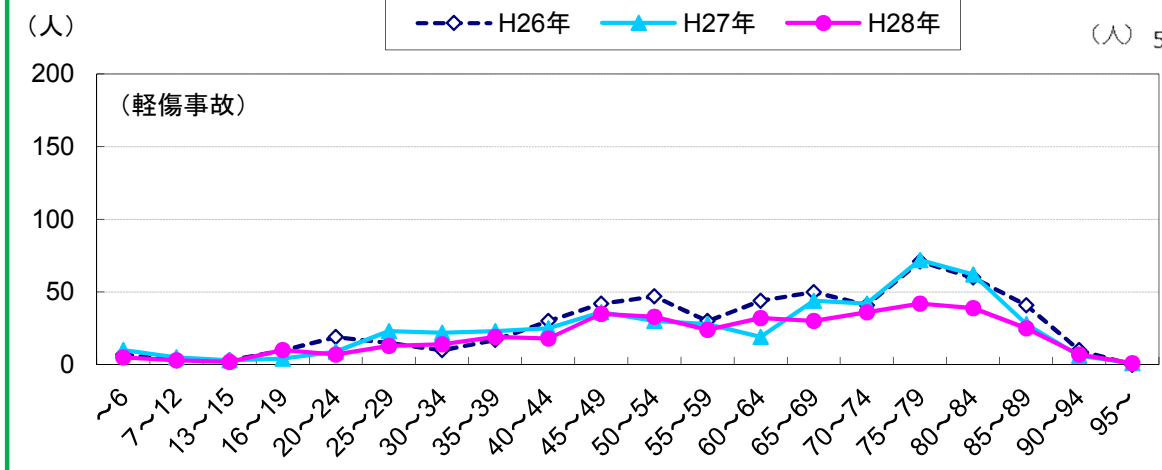
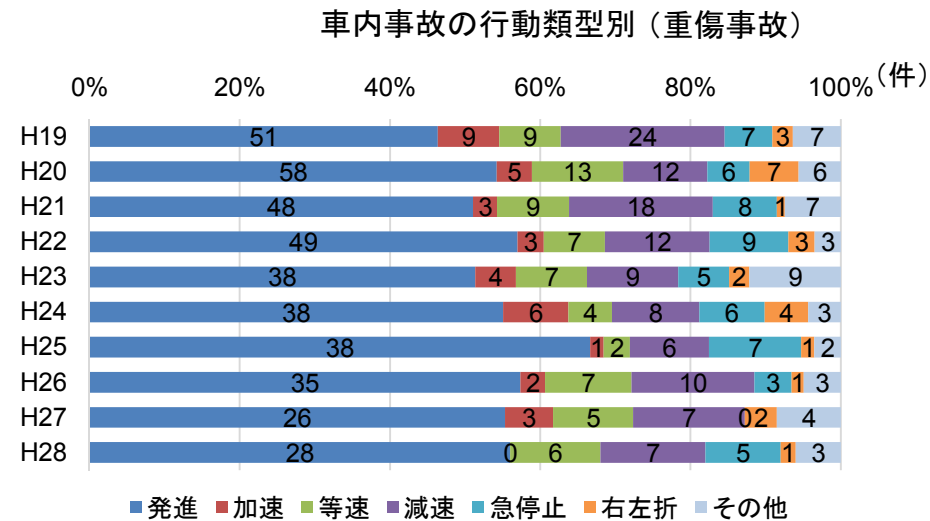
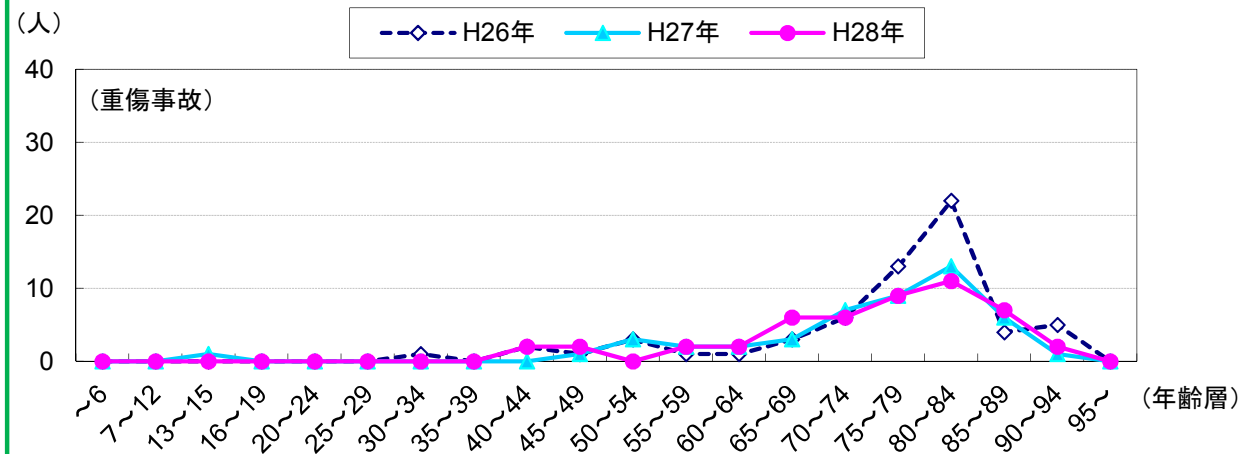
事故類型別 (死亡・重傷事故)



車両相互の事故分類 (死亡・重傷事故)

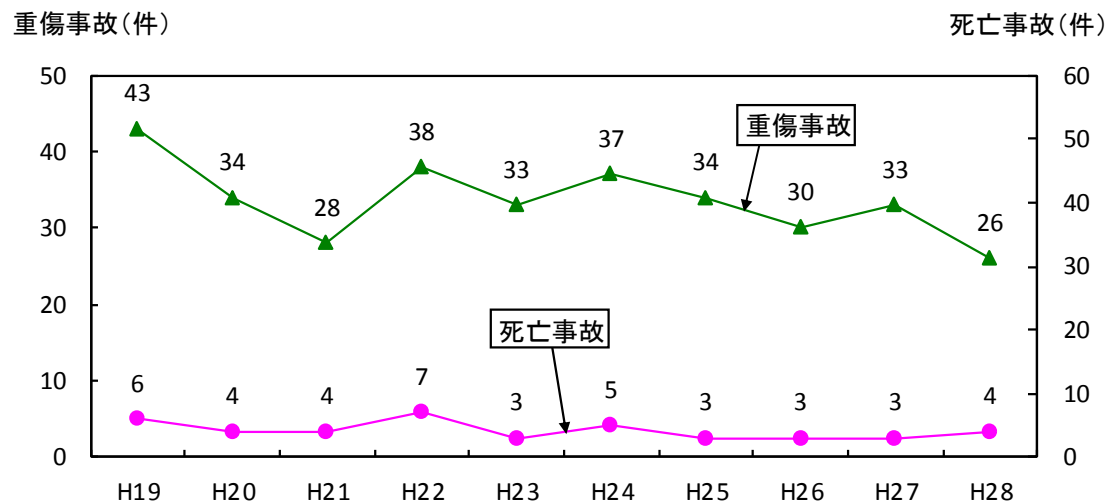
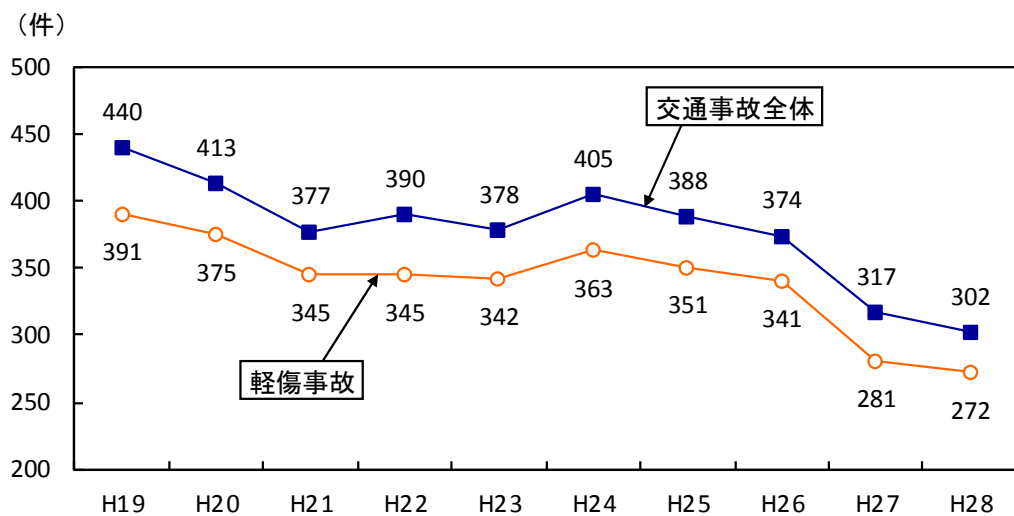


乗合バスによる車内事故の負傷者数の年齢分布 (H28)

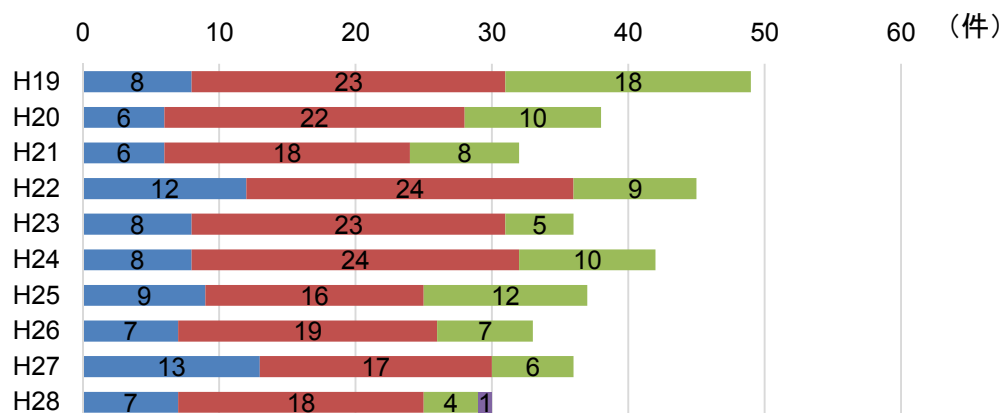


貸切バスによる死亡、重傷事故の概観（H28）

- ◆ 貸切バスによる事故全体の件数については減少傾向。死亡事故は平成24年以降横ばいで推移。重傷事故は平成27年は増加したが減少傾向。
- ◆ 事故類型別では、「**車両相互の事故**」が最も多い。多く発生する事故分類は年毎に異なる。

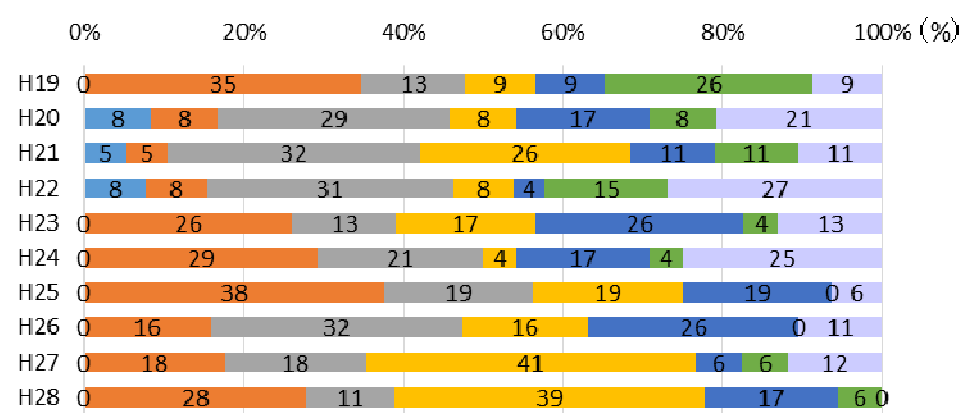


事故類型別 (死亡・重傷事故)



■ 人との事故 ■ 車両相互の事故 ■ 単独事故 ■ 列車

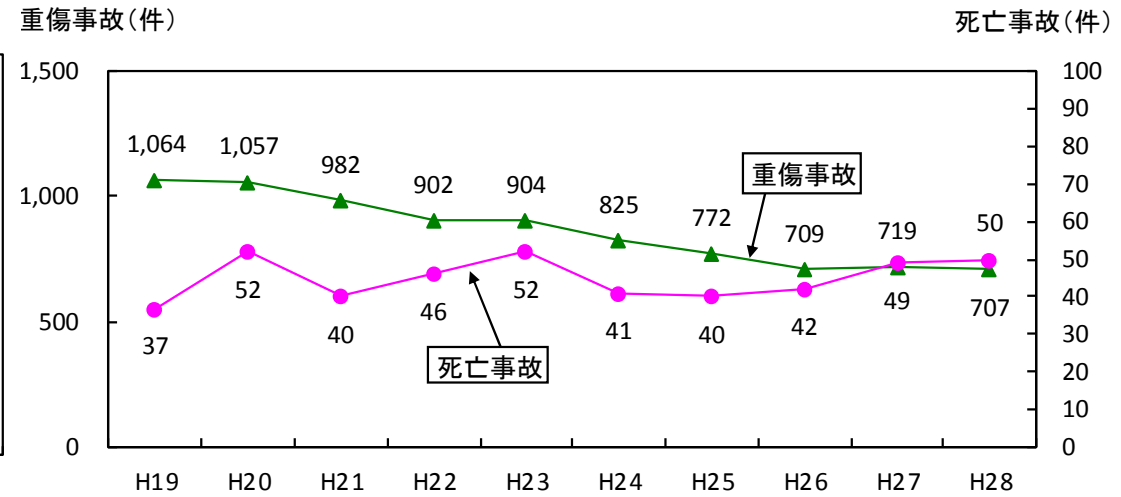
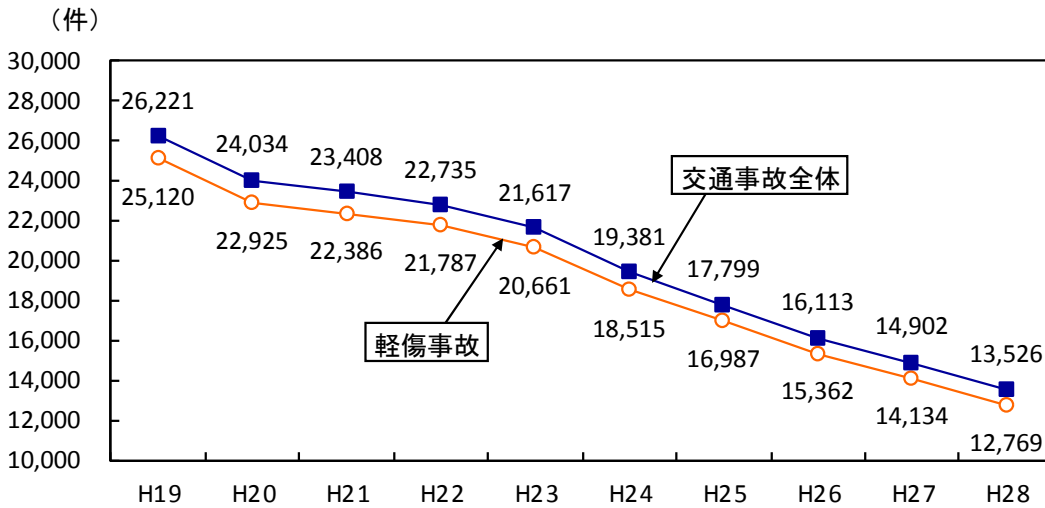
車両相互の事故分類 (死亡・重傷事故)



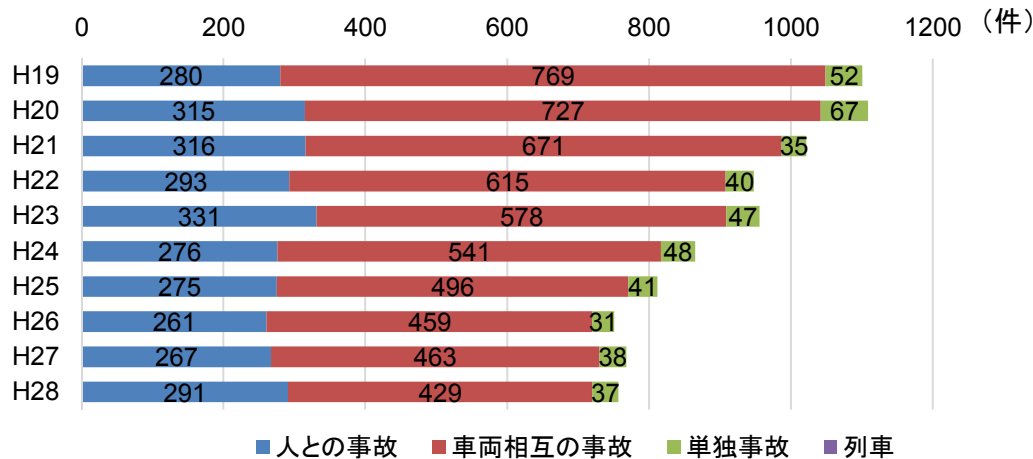
■ 正面衝突 ■ 追突 ■ 出合い頭衝突 ■ 左折衝突 ■ 右折衝突 ■ 追越・追抜・道路変更時衝突 ■ その他

ハイヤー・タクシーによる死亡、重傷事故の概観（H28）

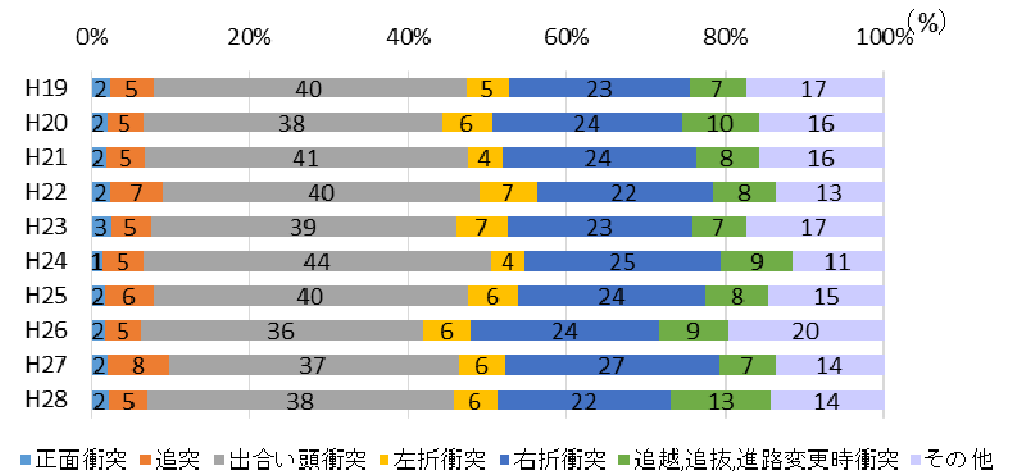
- ◆ ハイヤー・タクシーによる事故全体の件数、重傷事故は減少傾向にあるが、死亡事故は横ばい傾向。
- ◆ 事故類型別では「**車両相互の事故**」が最も多く、そのうち「**出会い頭**」と「**右折時**」の事故が多い。



事故類型別 (死亡・重傷事故)

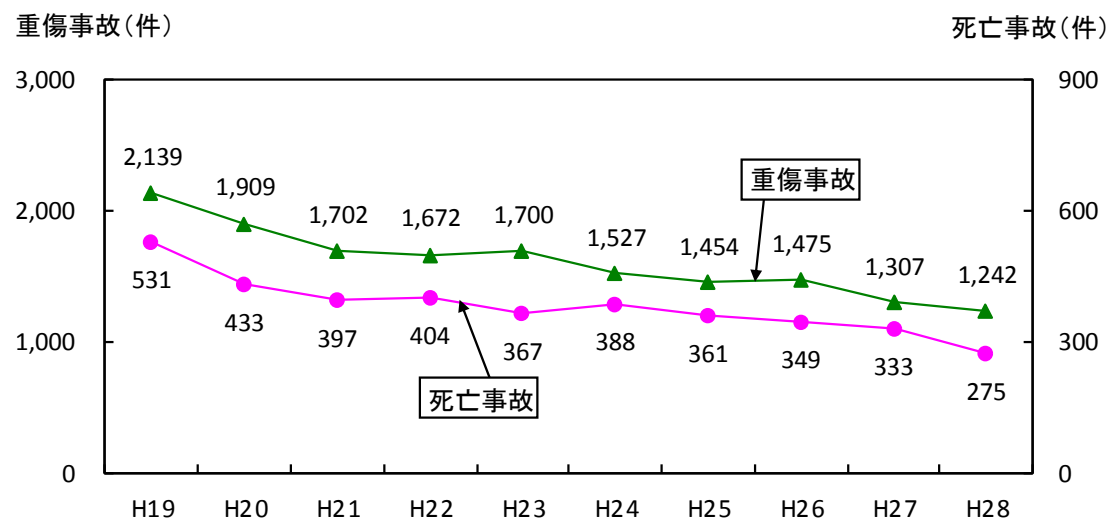
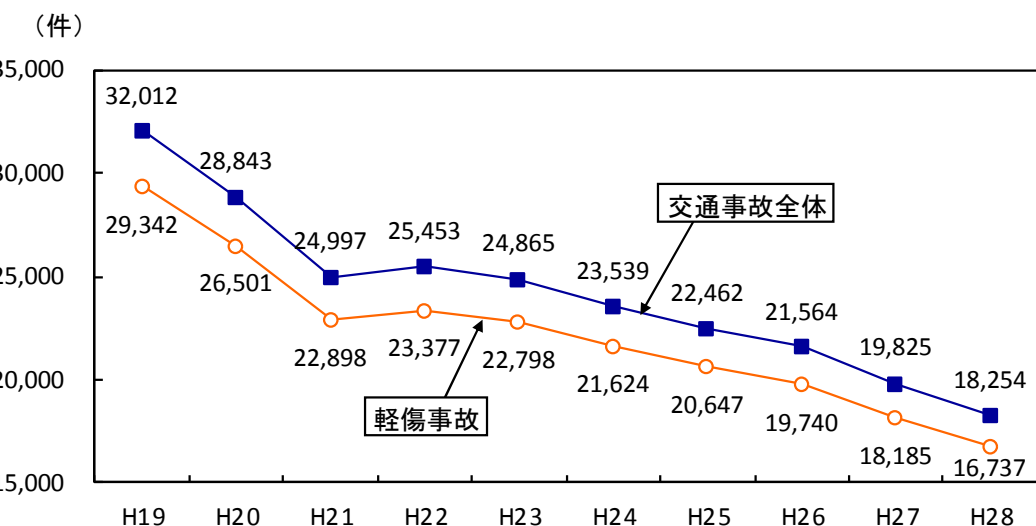


車両相互の事故分類 (死亡・重傷事故)

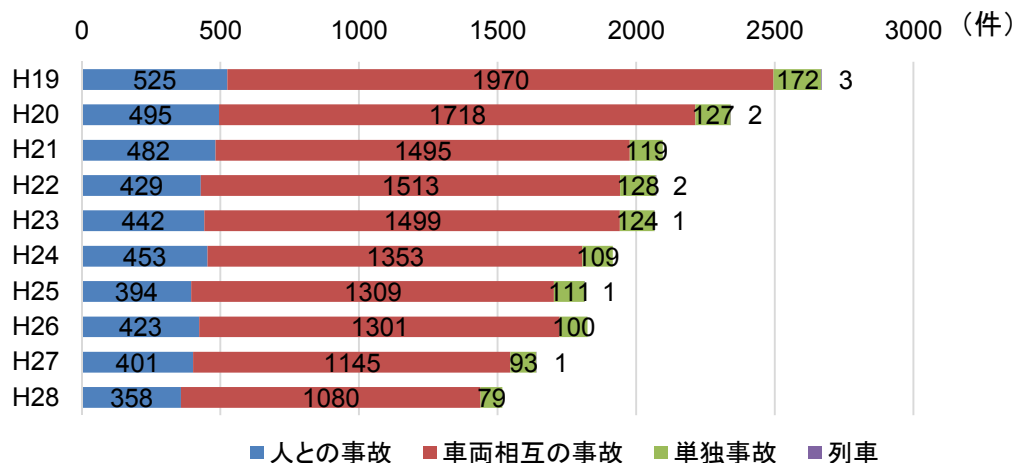


トラックによる死亡、重傷事故の概観（H28）

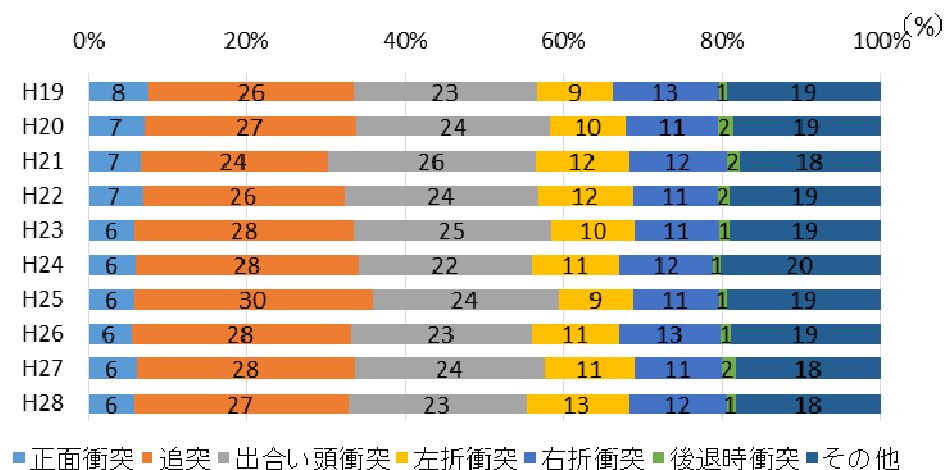
- ◆トラックによる事故全体の件数は減少傾向。死亡事故についても平成28年は前年より大きく減少。
- ◆事故類型別では「車両相互の事故」が最も多く、事故分類では「追突」と「出会い頭衝突」で約半数を占めている。



事故類型別（死亡・重傷事故）



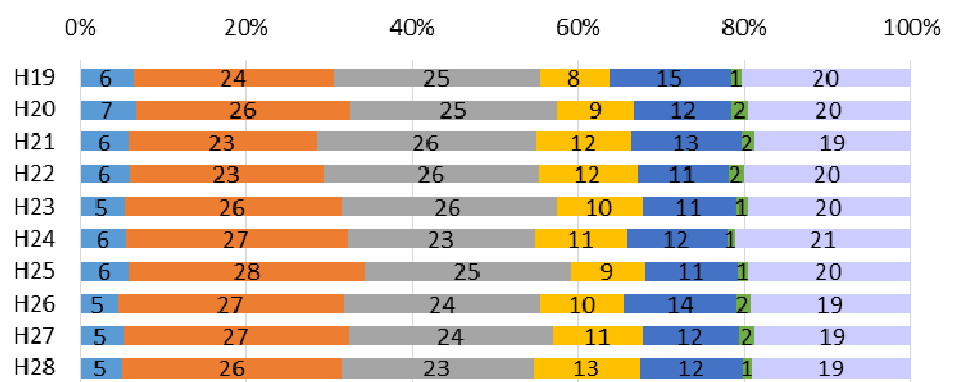
車両相互の事故分類（死亡・重傷事故）



○車両相互の事故の事故分類

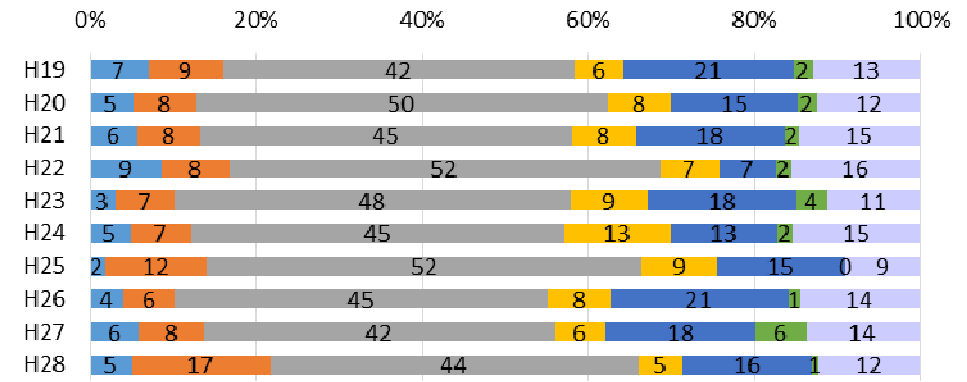
- ◆ 車両総重量3.5t以下では、「出会い頭」が最も多く、「右折時」がその次に多くなっている。
- ◆ 車両総重量3.5～8t以下では「追突」「出会い頭」が多く同程度である。
- ◆ 車両総重量8t超では、「追突」が最も多く、「出会い頭」は他に比べ少なくなるが、「左折時」が増加する。

トラック（全て）※車両総重量不明を除く（死亡・重傷事故）



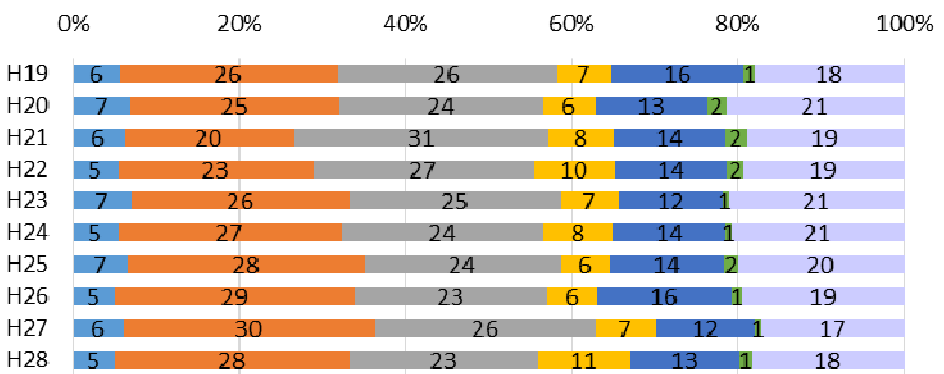
■ 正面衝突 ■ 追突 ■ 出会い頭衝突 ■ 左折時衝突 ■ 右折時衝突 ■ 後退時衝突 ■ その他

トラック（車両総重量～3.5t）（死亡・重傷事故）



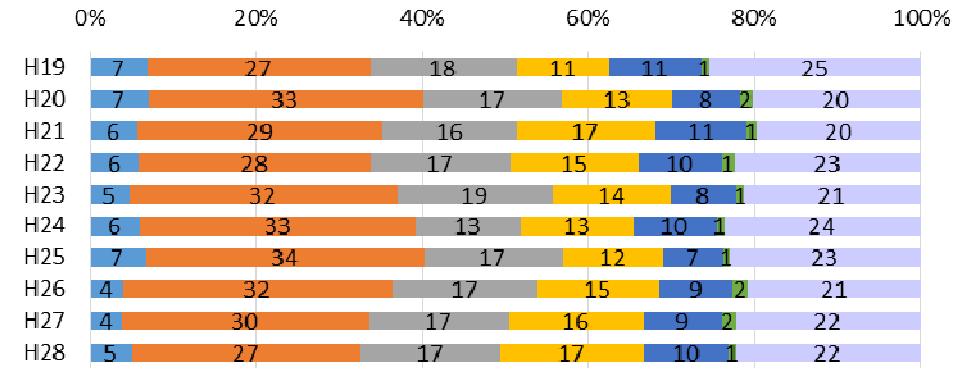
■ 正面衝突 ■ 追突 ■ 出会い頭衝突 ■ 左折時衝突 ■ 右折時衝突 ■ 後退時衝突 ■ その他

トラック（車両総重量3.5～8t）（死亡・重傷事故）



■ 正面衝突 ■ 追突 ■ 出会い頭衝突 ■ 左折時衝突 ■ 右折時衝突 ■ 後退時衝突 ■ その他

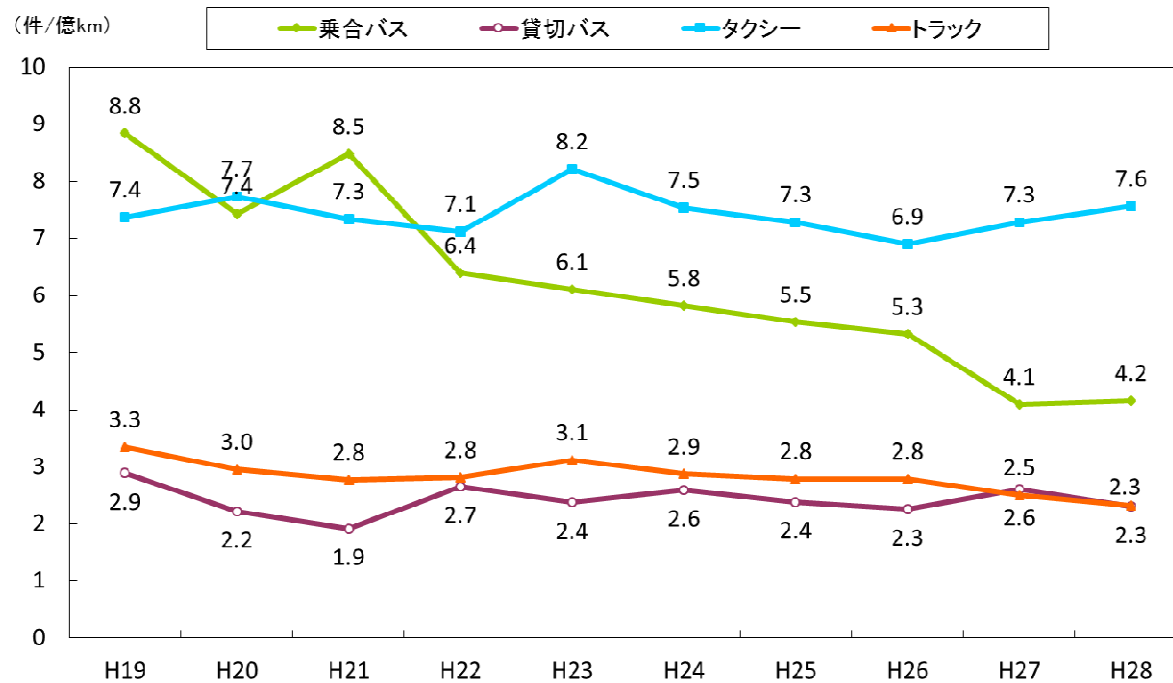
トラック（車両総重量8t～）（死亡・重傷事故）



■ 正面衝突 ■ 追突 ■ 出会い頭衝突 ■ 左折時衝突 ■ 右折時衝突 ■ 後退時衝突 ■ その他

- ◆ 乗合バスは平成23年以降減少傾向であったが平成28年に微増している。
- ◆ 貸切バスはほぼ横ばい傾向となっている。
- ◆ タクシーは近年増加傾向となっている。
- ◆ トラックは平成24年以降減少傾向となっている。

事業用自動車の業態別走行台キロと死亡、重傷事故件数の推移



区分 年	死亡・重傷事故件数				走行台キロ			
	乗合	貸切	タクシー	トラック	乗合	貸切	タクシー	トラック
H19	267	49	1,101	2,670	30.2	17.0	149.3	797.1
H20	227	38	1,109	2,342	30.5	17.1	143.4	791.4
H21	258	32	1,022	2,099	30.4	16.7	139.2	756.9
H22	194	45	948	2,075	30.3	16.9	133.1	737.3
H23	184	36	956	2,067	30.1	15.2	116.4	662.3
H24	177	42	866	1,915	30.4	16.2	114.8	667.0
H25	169	37	812	1,815	30.5	15.5	111.4	650.1
H26	166	33	751	1,824	31.2	14.6	108.8	653.9
H27	130	36	768	1,640	31.8	13.8	105.4	653.7
H28	131	30	757	1,517	31.5	13.0	100.1	652.5

乗合バス

- ◆ 死亡事故は、昨年より8件減少したが、重傷事故は、9件増加した。
- ◆ 事故類型別では、「単独事故」が約半数を占め、ほとんどが「車内事故」であり、「発進時が最も多い（28件、47%）」
- ◆ 「車両相互の事故」の事故分類では、出会い頭、右折、追越、追抜時等が多い。

- ◆ 死亡事故は、平成24年以降増加又は横ばいで推移、重傷事故は、昨年より7件減少した。
- ◆ 事故類型別では、「車両相互の事故」が最も多い（18件、60%）。
- ◆ 「車両相互の事故」の事故分類では、左折時が最も多い（7件、39%）

ハイヤー・タクシー

- ◆ 死亡事故は、平成25年以降増加傾向、重傷事故は、昨年より12件減少した。
- ◆ 事故類型別では、「車両相互の事故」が最も多い（429件、57%）」
- ◆ 「車両相互の事故」の事故分類では、出会い頭、右折時が多い。

- ◆ 死亡事故、重傷事故とも減少傾向。
- ◆ 事故類型別では、「車両相互の事故」が最も多い（1080件、71%）。
- ◆ 車両相互の事故の事故分類では、車両総重量3.5t以下は出会い頭が最も多く、車両が大きくなるにつれて追突が多くなる。車両総重量8t以上では左折時が増加する。

死亡重傷事故

- ◆ 乗合バスは「単独事故」が約50%と最も多く、次いで「人との事故」と「車両相互の事故」が多い（約25%）。貸切バス、ハイヤー・タクシー及びトラックについては「車両相互の事故」が最も多く（57～71%）になっている。

○昨年度は、各モードにおける、死亡事故において特徴的な「人・自転車との事故」の分析を実施した。これに対して今年度は、死亡・重傷事故において「人・自転車との事故」に「車両相互の事故」等を加えて事故低減対策のポイントをとりまとめる。

○乗合バスの重傷事故の多くを占める車内事故については、本検討会の前身である事業用自動車要因分析検討会の平成22年度特定テーマとして策定された「乗合バスの車内事故を防止するための安全対策実施マニュアル」における対策の再徹底を事故低減対策のポイントとする。

